

# PETRI PENTA

**INSTRUCTION BOOK**

## ペトリペンタVのお買上げありがとうございます



ペトリペンタVは完全自動絞り付のペンタプリズム式一眼レフとして、最高の機能を誇る35ミリカメラです。ペトリペンタVは日本で最も長い歴史と信用をもつ当社において、素材から仕上、組立、検査の全工程を近代的コンベヤーメーションシステムによる社内一貫作業によって製作しております。堅牢、優美、高性能とすべての条件を備えているにかかわらず、手頃な価格でみなさまのお手元へお届けできるのはこんなわけなのです。

数々の特長をもつペトリペンタVは、みなさまのご愛用機として、きっとご満足いただけるものと自負しております。

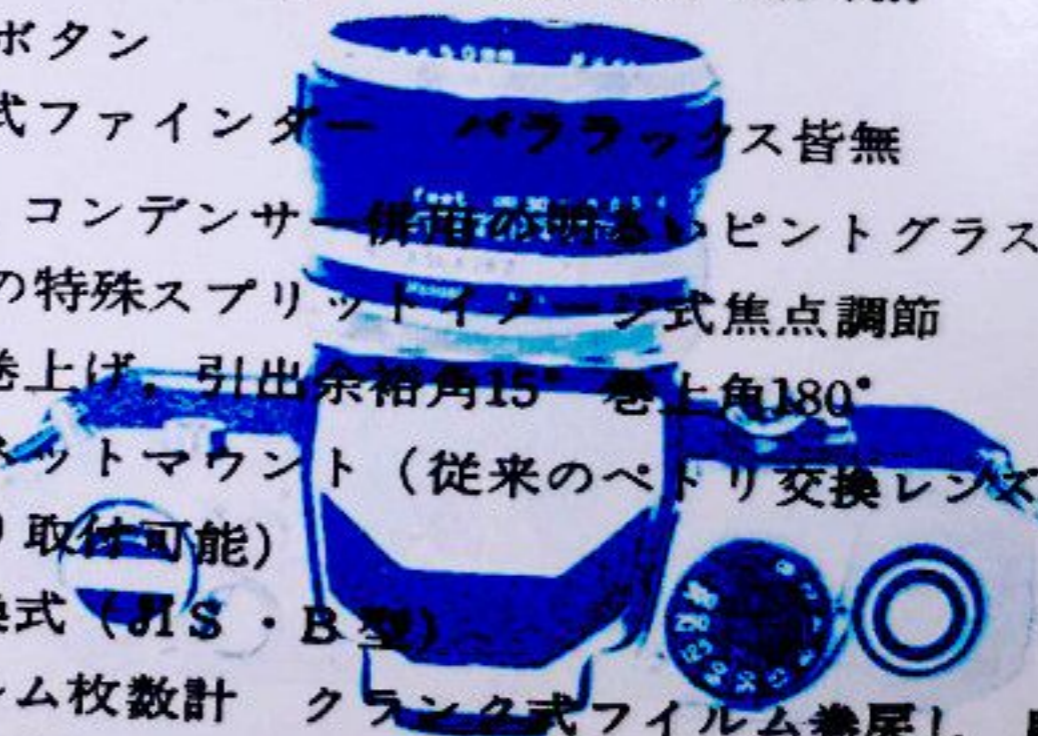
# 目次

● ペトリペンタVの性能表	4
● 各部の名称	6
● ペトリペンタVの構造と新機構	8
● まず覚えていただきたい基本的な操作	10
1. 巻上げレバーの操作	10
2. 露出をきめる絞りとシャッターの操作	11
3. 焦点の合わせ方	12
4. 完全自動絞りと手動絞りの操作	13
5. セルフタイマーの使い方	14
6. フィルム枚数計の合わせ方	15
● ペトリオリコールレンズについて	16
● 撮影の順序	18
● フィルムの入れ方	18
● ペトリペンタVの構え方	22
● ファインダーののぞき方、焦点合わせの要領	23
● レンズ交換を行う場合のレンズの取りはずし方	23
● 露出のきめ方・四季の露出表	24
● 被写界深度とは・被写界深度表	26
● フィルムの出し方	28
● シンクロ撮影の方法	29
● ペトリ交換レンズを使えばこんなに変化のある撮影ができます	30
● ペトリペンタVのアクセサリ	31

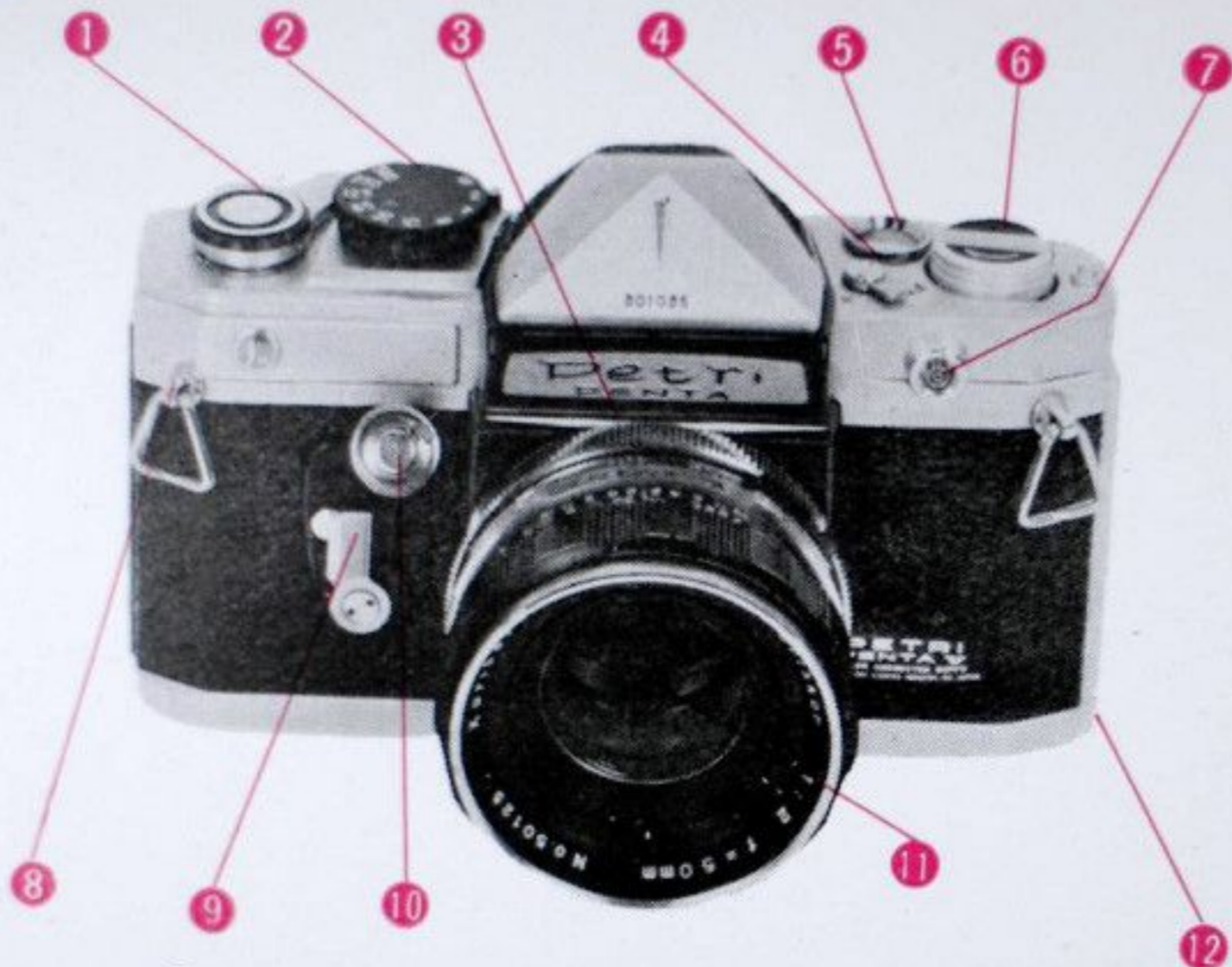


ペトリペンタVの性能表

形 式	クイックリターン式のペンタプリズム一眼レフレックス
使用フィルム	35mmフィルム, 36枚・20枚撮り, パトローネ入り
画面サイズ	24×36mm
標準レンズ	ペトリオリコール50mm F2, 完全自動絞り (手動可) 専用バヨネット
シャッター	フォーカルプレキシッター 1軸不回転式大型シャッターダイヤル B 1/2 1/4 1/8 1/15 1/30 X 1/60 1/125 1/250 1/500 斜めシャッターボタン
ファインダー	ペンタプリズム式ファインダー
焦点調節	フレネルレンズ, コンデンサー併用の硝子ピントガラスによる焦点調節と中央部の特殊スプリットイマー式焦点調節
フィルム巻上	一作動式レバー巻上げ, 引出余裕角15° 巻上角180°
レンズ交換	3本爪専用バヨネットマウント (従来のペトリ交換レンズもアダプターリングにより取付可能)
シンクロ接点	FP, X 接点切換式 (JIS・B型)
その他	自動復元式フィルム枚数計 クランク式フィルム巻戻し 時限調節式セルフタイマー内蔵



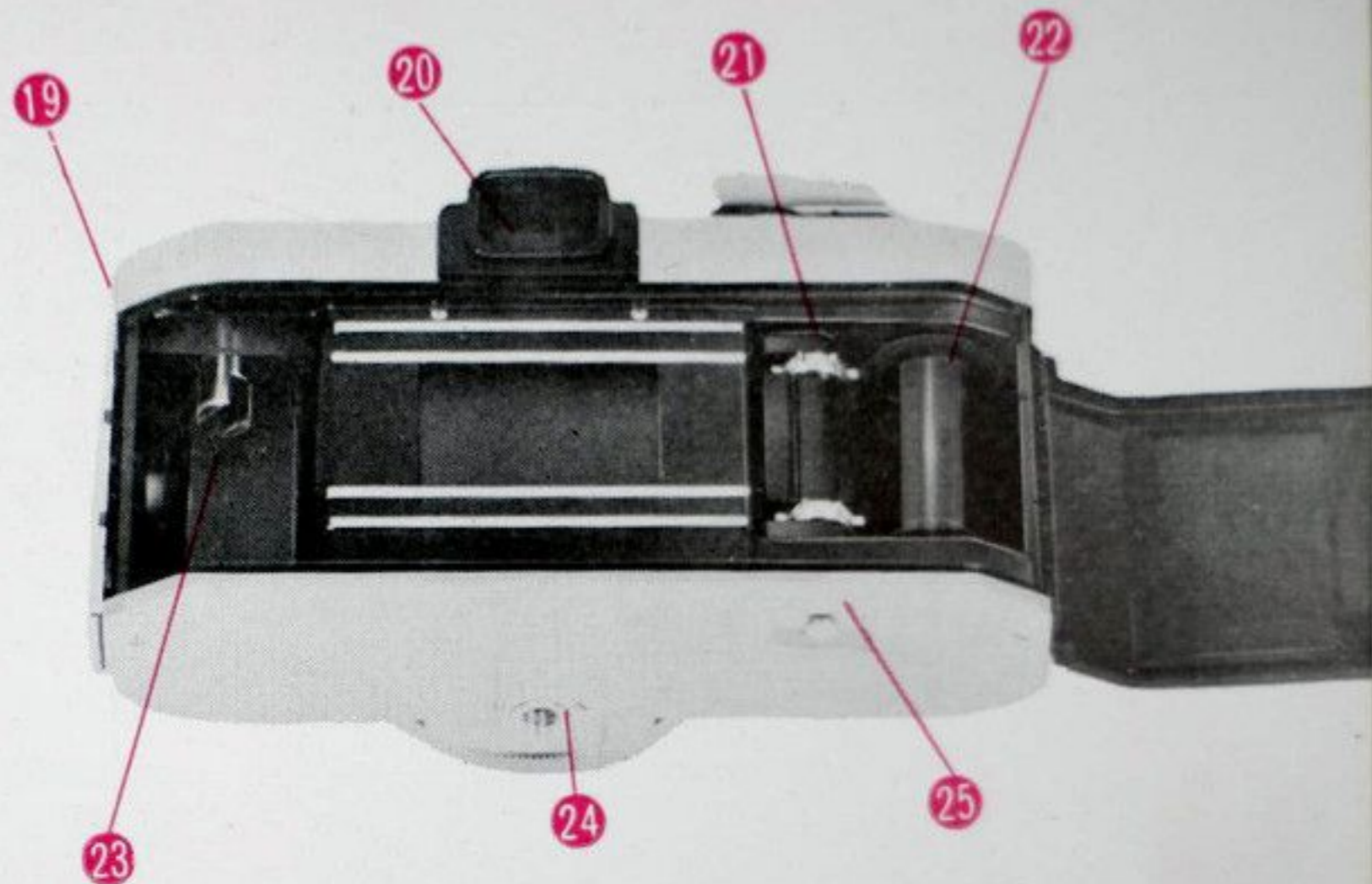




- ①フィルム巻上げレバー
- ②シャッターダイヤル
- ③バヨネット着脱用リング
- ④シンクロ切換レバー (X, FP)
- ⑤フィルム枚数計

- ⑥フィルム巻戻しクランク
- ⑦フラッシュシンクロターミナル
- ⑧吊環
- ⑨セルフタイマーレバー
- ⑩シャッターレリーズボタン

ベトリペンタの各部の名称をまよがしに記述し、その名称を覚えておくことは、それらの部分がそれぞれどんな大切な働きをするかを知るために、この使用書をご活用下さい。



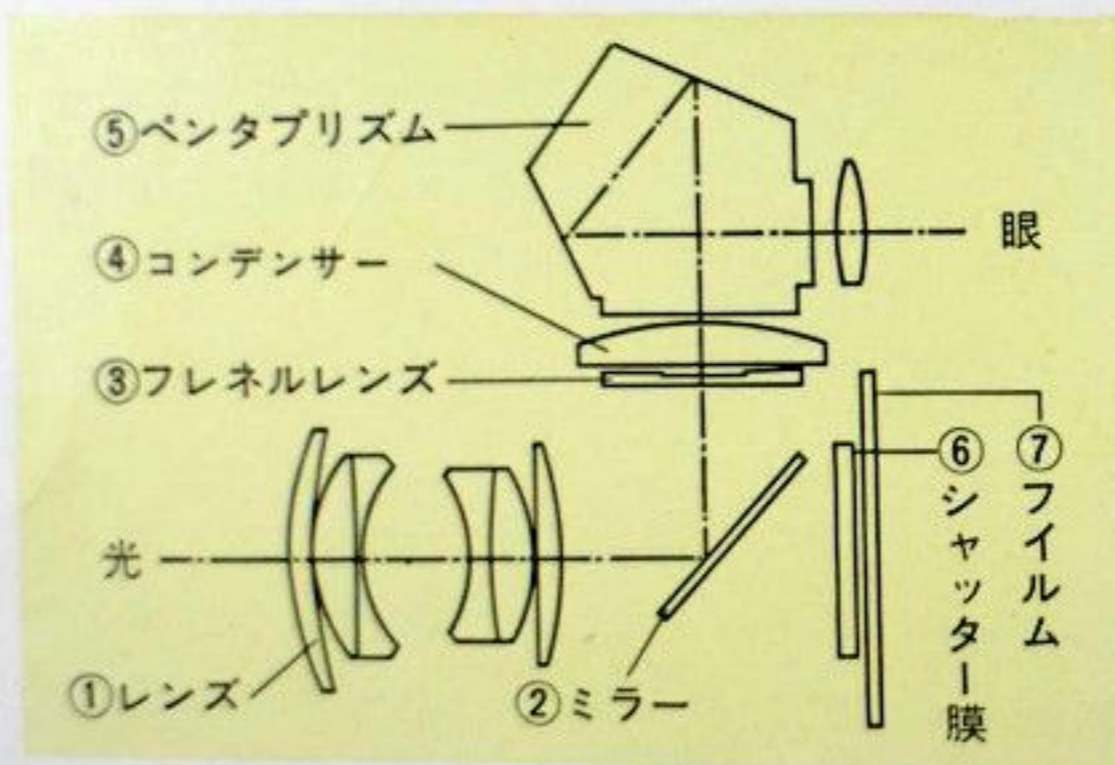
- ①オリコールF 2 50mm レンズ
- ②裏蓋開閉レバー
- ③ヘリコイドリング
- ④距離目盛
- ⑤被写界深度目盛

- ⑥絞り目盛
- ⑦手動絞り用リング
- ⑧バヨネット
- ⑨アクセサリシュー用ねじ穴
- ⑩アイピース

- ⑪スプロケット
- ⑫巻取りスプール
- ⑬パトローネボックス
- ⑭三脚用ねじ穴
- ⑮リターンボタン

## ペトリペンタVの構造と新機構

ペトリペンタVは下図のように①レンズから入った光が②ミラー（反射鏡）によって反射され、画面を周辺まで明るく見せる③フレネルレンズ、④コンデンサー（こゝに映像が結ばれる）を通り、更に⑤ペンタプリズムで屈折された後



眼に達します。従ってこのファインダーにはパララックス（実画面とファインダー像とのズレ）が全くありません。その上、③フレネルレンズの中央部はスプリットイメージ（上下逆合致式）の焦点板となっていますから、精密なピント調節が容易にできます。

シャッターリリースボタンを押しますと、絞りが所定のF値まで絞られ、②ミラーが上方にはね上り、⑥シャッター膜が走って、⑦フィルムに感光します。そして更にミラーが元の位置に戻り、絞りが開放に戻ります。これらの複雑な働きが、すべて自動的に瞬間的に連動して行われます。つまり、ミラーはクイックリターン式、絞りは完全自動絞りになっているのです。これによって露光時にファインダー映像が消えるという一眼レフの欠点を完全に解決し、更に



速写性を増したことは飛躍的な進歩といえましょう。また、シャッターを切ると同時にフィルム枚数計が自動的に1目盛進みます。

大型のシャッターダイヤルは1軸不回転式ですから、フィルムを巻上げる前でも後でも、指先で軽く回すだけで簡単に目盛を合わせられます。目盛は倍数系列、等間隔になっています。

この他、シャッターボタンがレンズ光軸に対して30度の角度をつけて取付けられているので、安定性がよくカメラぶれの心配がない点、フィルム巻上げレバーに15度の引出余裕角がついているので速写に偉力を発揮する点、作動時間の調節できるセルフタイマーが内蔵されている点等々、数多くの新機構をもっているのがペトリペンタVです。また、手動絞り装置が取付けられている点も特筆されましょう。



# まず覚えていただきたい 基本的な操作

(フィルムを入れる前にこれだけの操作をしてみてください。)

## 1. 巻上げレバーの操作

●写真①のようにカメラを両手でしっかり持って、写真②のようにフィルム巻上げレバーを約1/4回転引き出します(スタート位置)。次にレバーに指をかけた後、止まるところまで(180度)回します(写真③)。ここで指を離すと写真④のように

レバーはスタート位置に戻ります。これでフィルムが1コマ分巻上げられ、同時にシャッター膜が巻上げられます。巻上げレバーを操作した後は、シャッターを切らない限り操作できません(空送り防止)。またシャッターを切った後はレバーを操作しない限り再びシャッターを切れません(二重露出防止)。



①



②



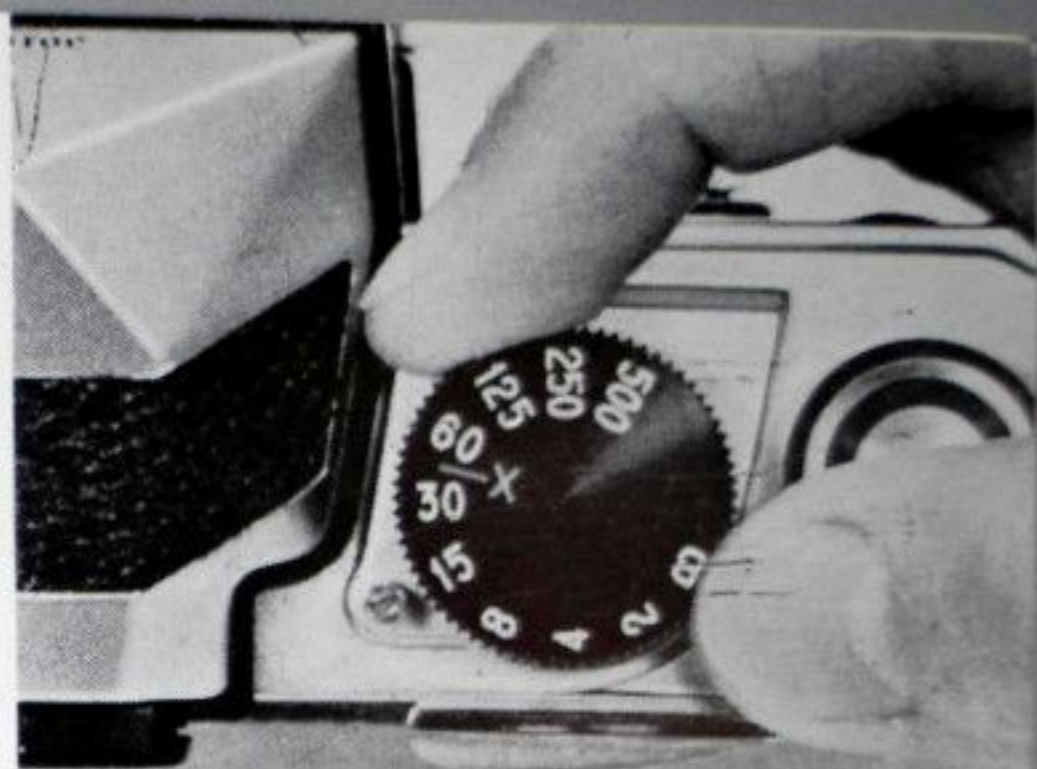
③

## 2. 露出をきめる絞り とシャッターの操作

- 右の要領で絞りとシャッター速度の目盛を適当に合わせてみましょう。この両者によって露出がきまります。(詳細は24頁)
- この両目盛の操作は、巻上げレバーの操作の前でも後でも構いません。

### シャッター速度目盛 の合わせ方

大型のシャッターダイヤルを回して、速度目盛を緑色の指標に合わせてます。赤字のXはストロボ撮影を行う場合の目盛です。



### 絞り目盛の合わせ方

絞りリングを持って回し、絞りの数字を指標(◆印)に合わせてます。数値が大きくなる程小絞り、小さい程大絞りになります。



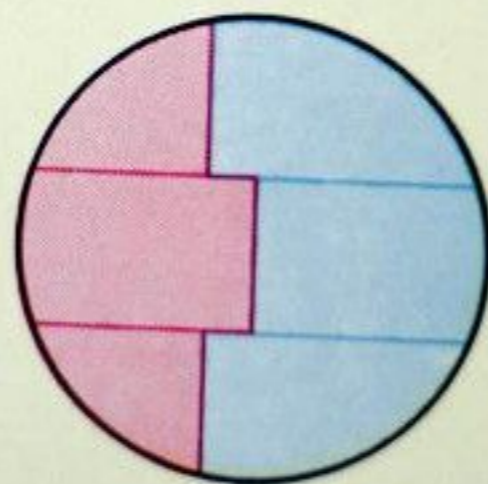
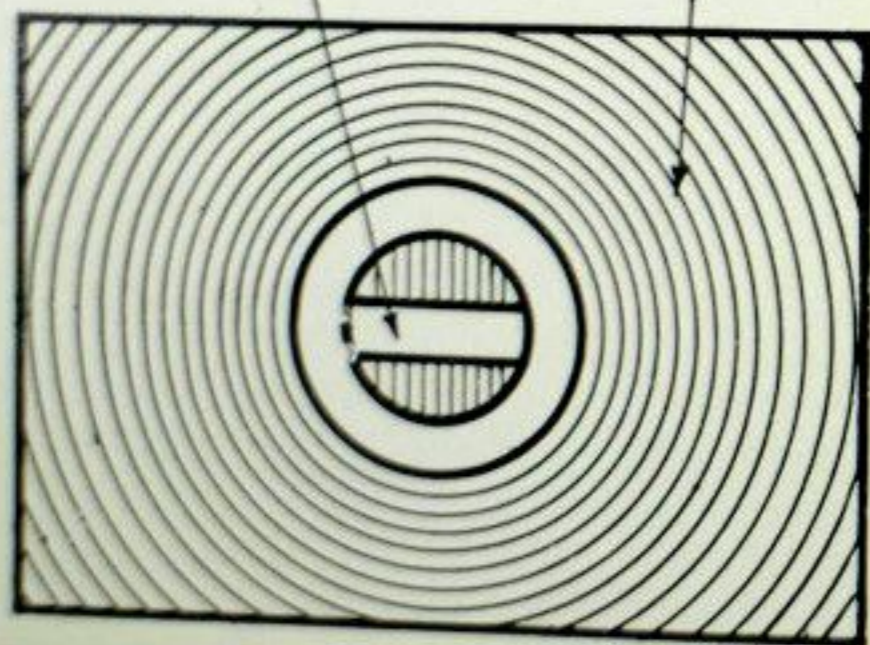
### 3. 焦点の合わせ方

●ファインダーをのぞきながらヘリコイドリングを回すと、被写体が鮮明に見える個所があります。これが焦点の合ったところ。更に精密なピントはスプリットイメージで合わせて下さい。ファインダー視野の中央にある円形がス

プリットイメージです。焦点の合っていないときは中央と上下の像がズレていますが、ヘリコイドリングの回転によって一方の像が動きます。こうして中央と上下像が一致したとき焦点が完全に合ったこととなります(下図参照)。

●標準レンズのままでも、1.75倍から無限遠までのすべての被写体に焦点を合わせられます。

スプリットイメージ      フレネル面



焦点が合っていないとき



焦点が合ったとき

#### 4. 完全自動絞りと手動絞りの操作

● 鏡胴の根本にある手動用の絞りリングをごらん下さい。このリングを回して Auto の文字をカメラの真上にすれば完全自動絞りが働いており、(普段はこの状態にしておきます。) Manual の文字を真上にすれば自動絞りは解除されます。(右の写真参照)

● 完全自動絞りはシャッターを切った瞬間だけ所定のF値に絞られますが、常時絞りは開放されています。従って焦点が合わせやすいのですが、実際に写される画像、つまり絞ったときの状態を見たいときは、完全自動絞りを解除し、実際に絞りを絞った上でのぞいて下さい。これによって被写界深度(実用上焦点の合う範囲)を目で見て判断することができます。手動絞りのまゝ撮影しても差支えありません。



F2 50 mm

上の写真は Auto の文字が真上にきていますから完全自動絞りが働いている状態です。矢印の把手に指をかけて止まるまで回し、Manual の文字を真上にすれば手動絞りとなります。

非常に簡単に完全自動絞りを解除できるこの装置はペトリペンタVの特長の一つとなっています。

## 5. セルフタイマーの使い方

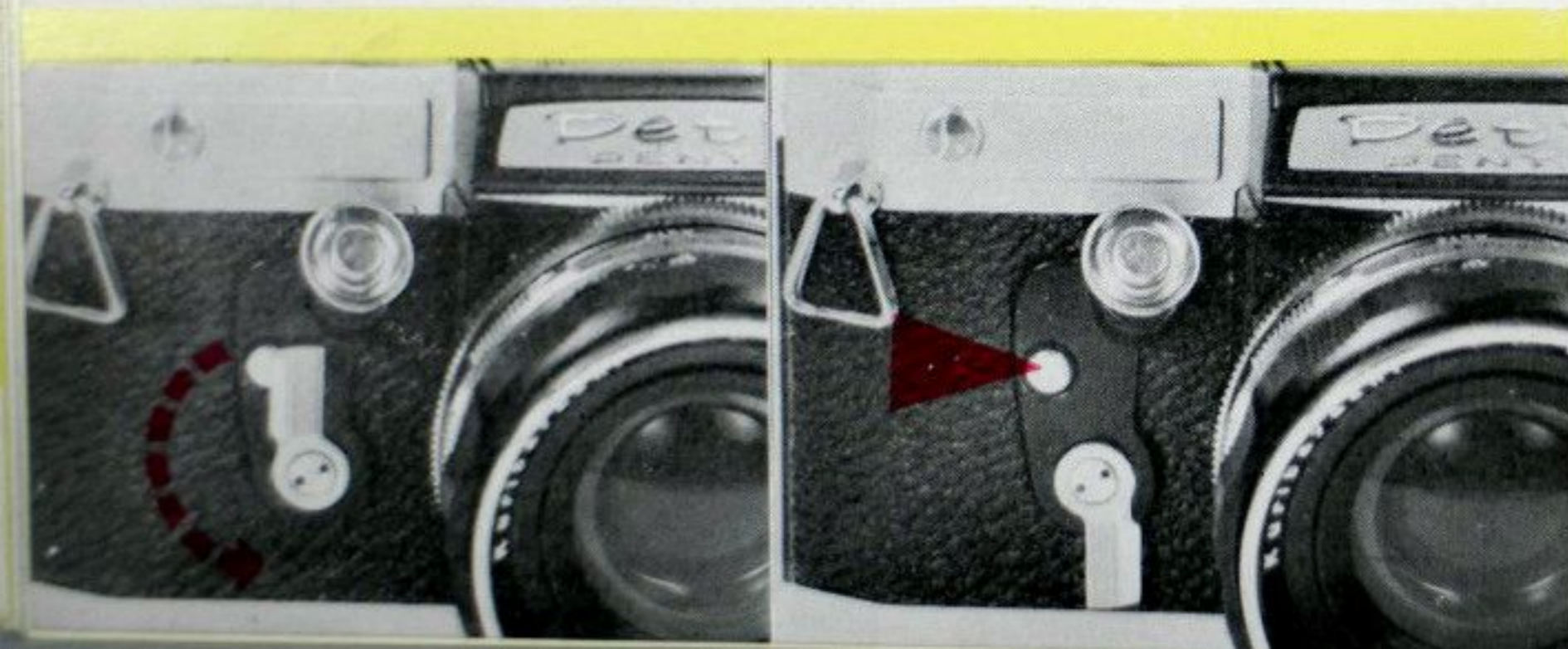
- セルフタイマーレバーを(左図)矢印の方向に180度押し下げ、(右図)に示すセルフタイマーボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、約11秒後にシャッターが切れます。
- セルフタイマーの作動時間を短くしたい場合は、途中位置までセットしたままセルフタイマーボタンを押せばよいのです。

●セルフタイマーのセットは、フィルム巻上げ前でも巻上げ後でも構いませんが、セルフタイマーの作動は必ず巻上げた後に行います。この場合はシャッターリリースボタンに手を添える必要はありません。

●セルフタイマーはB（バルブ）以外の露光モードで使用できます。

●セルフタイマーは記念撮影の際に撮影者自身も写りこみたい場合の他、接写や顕微鏡写真の

ように、絶対カメラぶれをしてはならない撮影の際に利用すると効果的です。セルフタイマーによる撮影では、必ずがっちりした三脚に固定する必要のあることはいうまでもありません。



## 6. フィルム枚数計の合わせ方

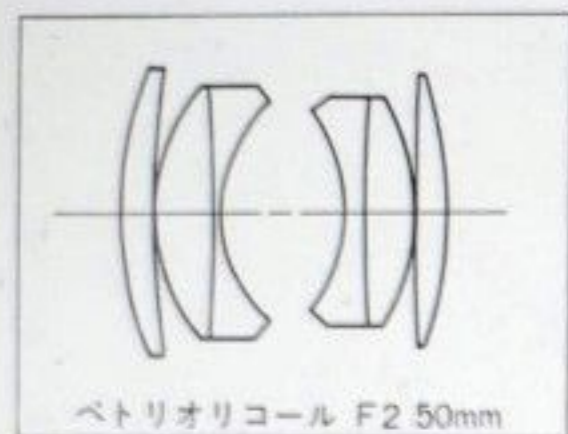


フィルム枚数計は撮影したフィルムの枚数を指示する装置です。ペトリペンタVの枚数計は、フィルム巻上げレバーを操作した後、シャッターを切りますとそれと同時に自動的に

1目盛進みます。そして、いつでも正しい撮影枚数を指示してくれます。また、裏蓋を開きますと、この枚数計は自動的に0(-3の位置)に復帰します。これが自動復元装置といわれるもので、フィルム装てんの場合にも、全く手をふれる必要がありません。従ってこれを合わせ忘れることが絶対にありません。



## ペトリオリコールレンズについて



ペトリペンタVに取付けられている標準レンズ  
ペトリオリコールF 2 50mmは4群6枚構成の高  
性能レンズで、いずれも高屈折率のフロントガラ  
スを使用しております。

諸収差は完全に除かれ、開放時にもすばらしい  
解像力を示します。またペトリ独特のコンビネー  
ションコーティングによって、黑白撮影ばかりで  
なく、カラー撮影にも最高の効果を発揮します。



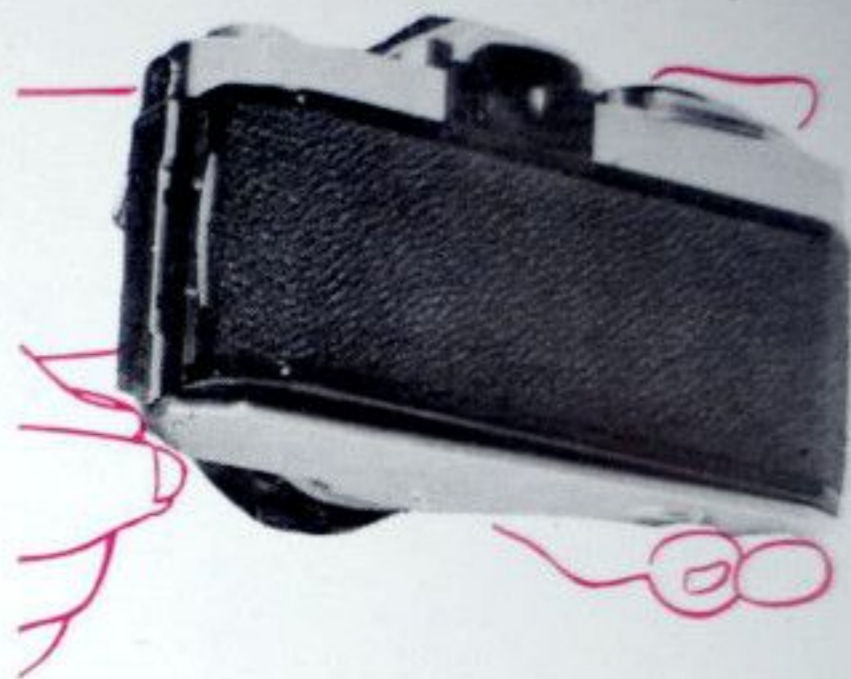




## 撮影の順序

撮影にかゝる前に次の準備をして下さい。

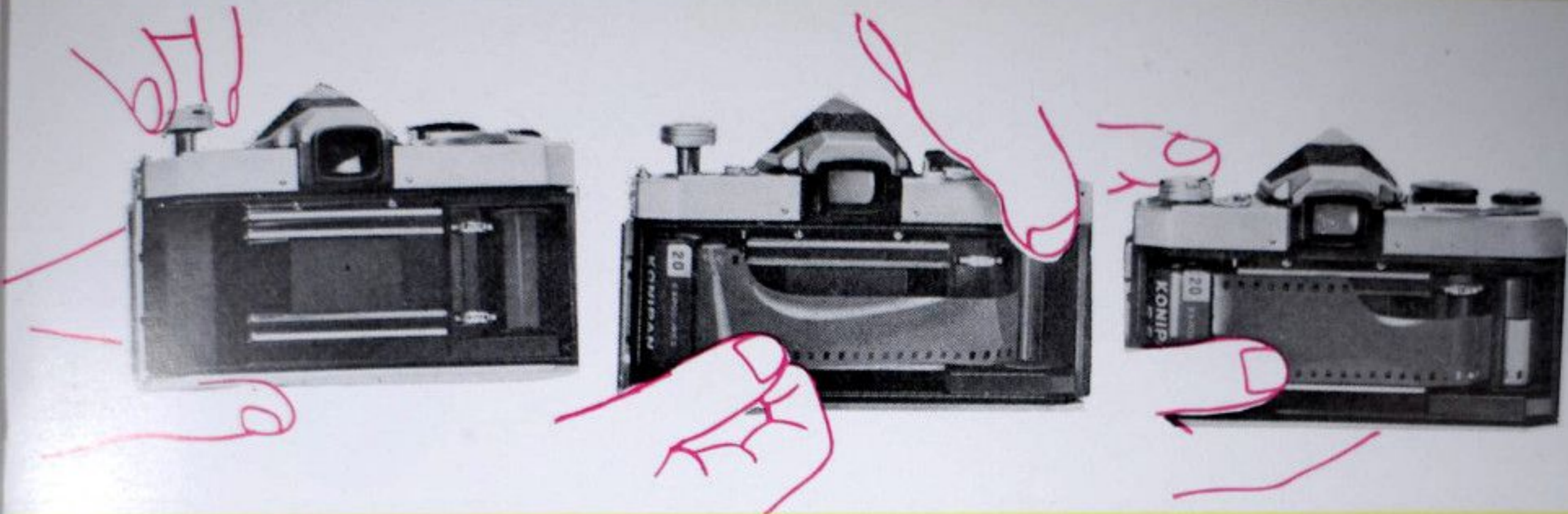
- ①フィルムをカメラに入れる
- ②完全自動絞りリングがAUTOに合っているかを確認する。これで準備完了です。次に被写体に対したら
- ③レンズキャップをとる
- ④絞り目盛とシャッター速度目盛をそのときの条件に合わせて調整し、露出をきめる
- ⑤巻上げレバーを巻上げる
- ⑥ファインダーをのぞきながら焦点を合わせ、構図をきめる
- ⑦シャッターレリーズボタンを押す
- ⑧更に⑤-⑦の操作を繰り返す（撮影枚数だけ）
- ⑨撮影が終わったらフィルムを巻戻して取出す



### 裏蓋をあける

裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。これと同時にフィルム枚数計が0（-3）の位置に自動的に戻ります。

### フィルムの入れ方



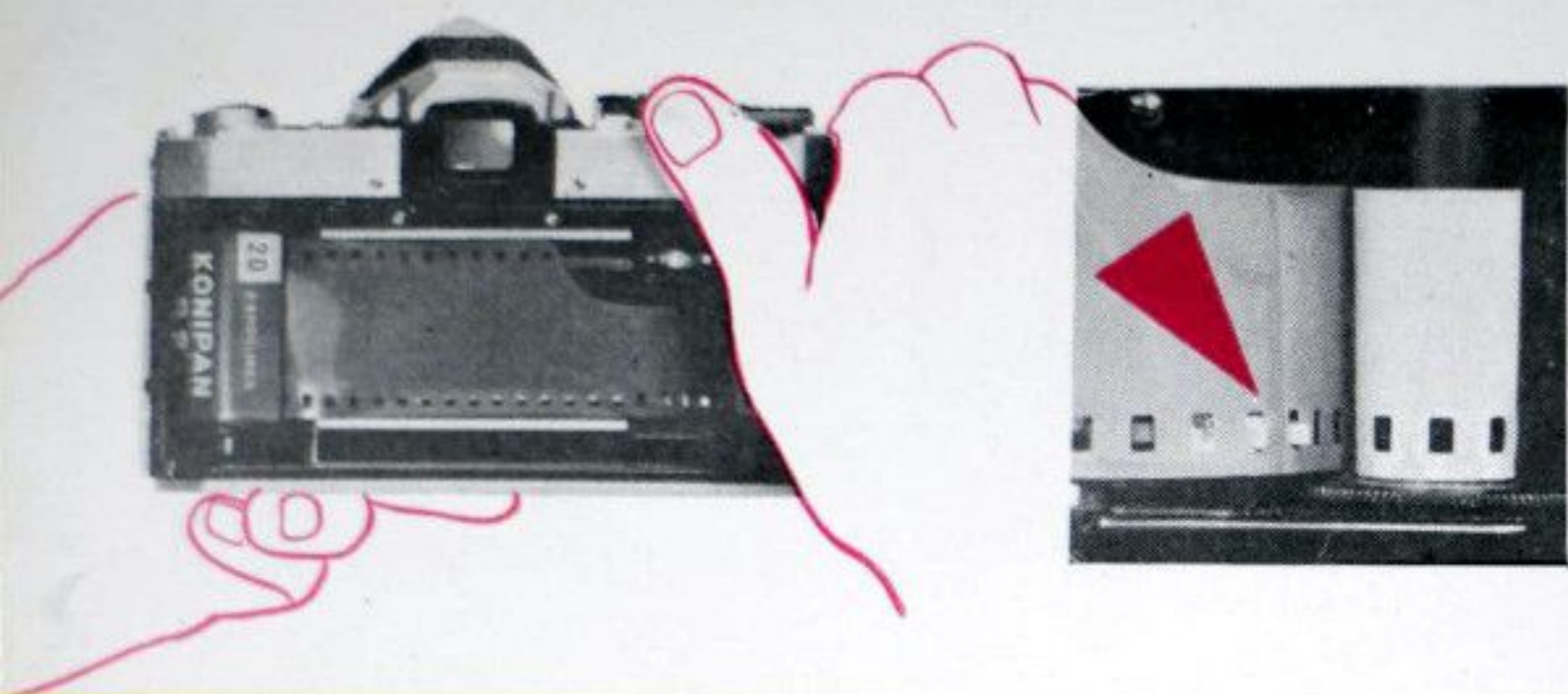
### 巻戻しクランクを引出す

巻戻しクランクをつまんで、止まるところまで引出します。これでパトローネボックスにパトローネ入りフィルムを納めることができます。

### フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこむ

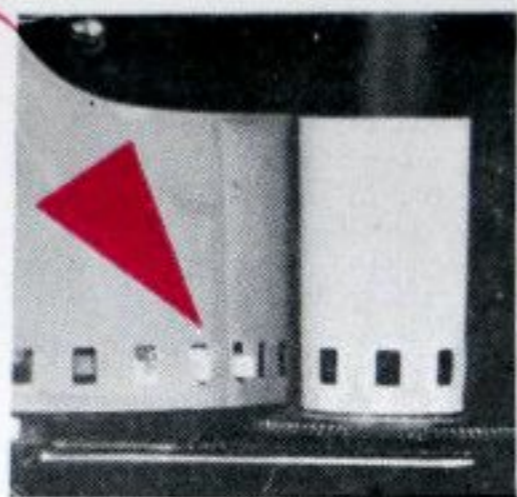
フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、先端から2つ目か3つ目のパーフォレーション（フィルムの爪孔）を溝の凸起にひっかけます。

パトローネをパトローネボックスに完全に収め、巻戻しクランクを左右に回しながら元の位置に押しこみます。



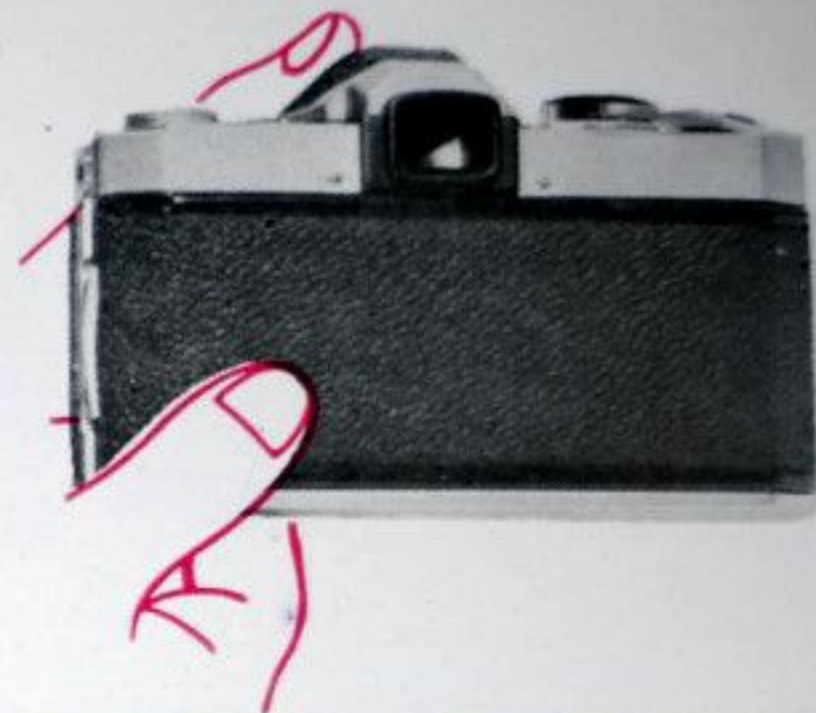
### 巻上げレバーを操作する

巻上げレバーを操作して、巻取りスプールにフィルムを1回転巻いてみます。



### パーフォレーションの状態

このときパーフォレーションはスプロケットの歯に完全にかみ合っていないかもしれません。十分確認して下さい。



### 裏蓋を閉める

裏蓋を閉めて押せばパチンと自動的に閉まります。シャッターボタンを押して、シャッターを切ります。



## フィルム枚数計がS印になるまで空写しする

レバーを巻上げシャッターを切ります。これでフィルムが完全に装てんされました。撮影直前にもう一度フィルムを巻上げればよいのです。

装てん中はフィルム枚数計はA図のように0（—3の位置）に戻っていますが、フィルムが装てんされ2回巻上げて撮影状態になったときは、2目盛進んでB図のようにSに合っています。

## フィルム装てん上のご注意

- ペトリペンタVはパトローネ入りの35ミリフィルムをご使用下さい。
- フィルムの装てんは直射日光下をさけて必ず日陰で行いましょう。
- フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこむとき、スプールのツバを回して、さしこみやすい位置に直して下さい。
- フィルムが正しく巻上げられているときは巻戻しクランクが矢印と反対の方向に回ります。ただしパトローネ中のフィルムがゆるんでいると回りません。この場合も巻戻しクランクを矢印の方向に回してフィルムをしめれば確認できます。
- S印に合わせた後の巻上げは撮影直前に行いましょう。

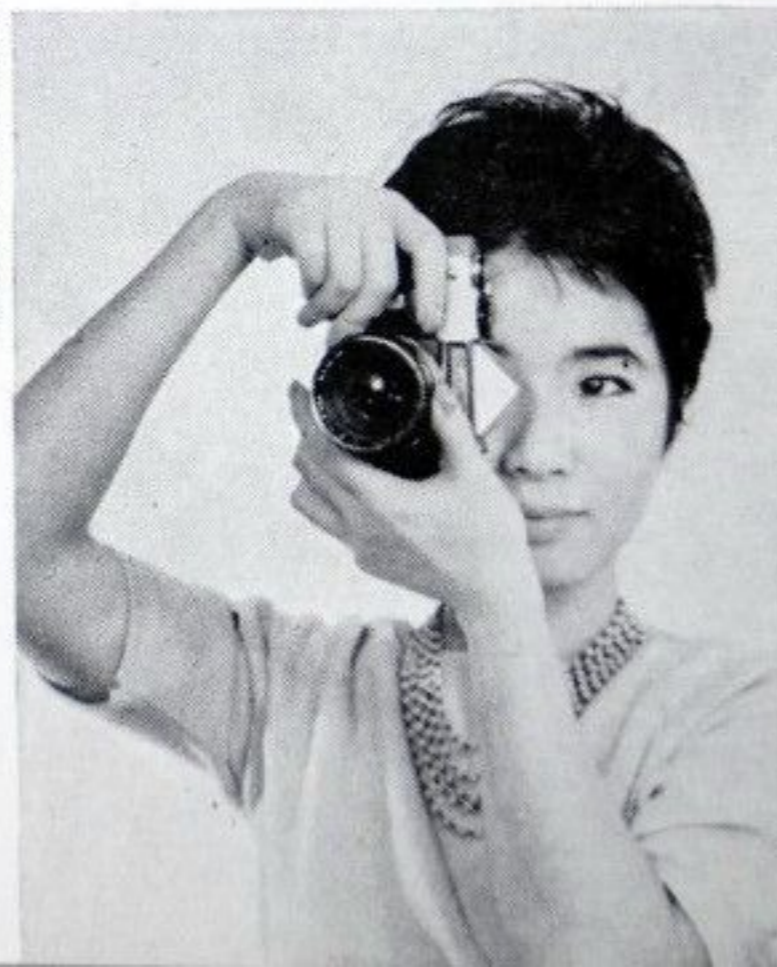


横位置の場合

要はカメラぶれをしないように、安定した持ち方をする事です。写真を参考にご研究下さい。

右手はしっかりとカメラのボデーを持ち、人差指が斜角30度のシャッターボタンに軽くふれ、いつでもシャッターが切れるようにしておきます。左手は下からレンズの鏡胴を支え、無理なく焦点調節ができるようにヘリコイドリングを保持します。

縦位置の場合(A)



縦位置の場合(B)



## ファインダーののぞき方

### 焦点合わせの要領

ペトリペンタVのアイピースは非常に大きく、眼鏡をかけたままでものぞけます。のぞき方がまがっていても視野は狂いませんが、なるべくアイピースの中央に眼をもってゆくようにしましょう。

焦点合わせの方法は12頁でご紹介した通りですが、これは絞りを所定のF値に絞った後でも（完全自動絞りですから実際には絞り開放になっている）非常に視野が明るく迅速に焦点を合わせられます。

スプリットイメージで焦点を合わせるには、被写体中の縦の線をファインダー視野の中央にもってくると非常にはっきりと上下像のズレが見えます。

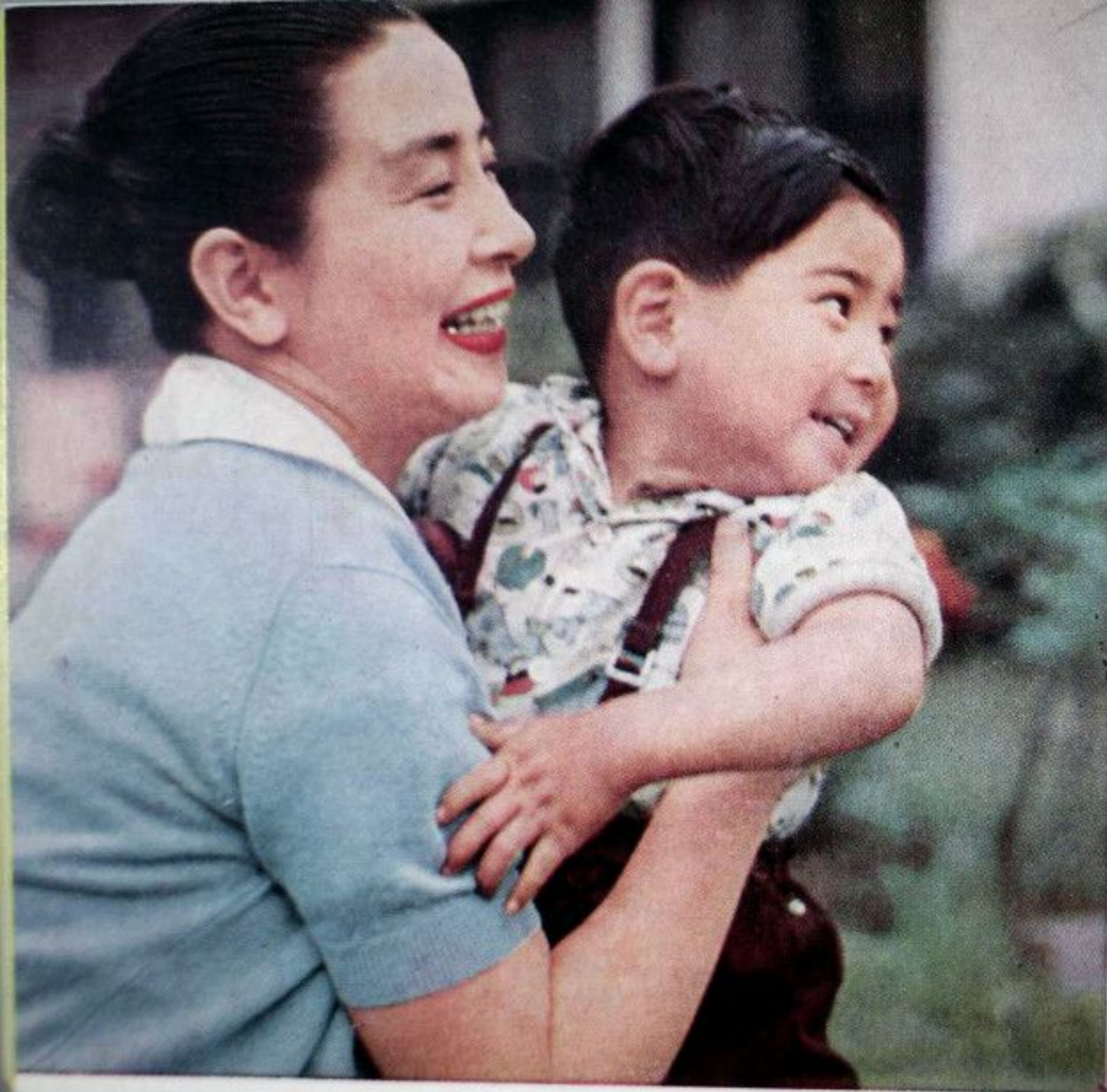
## レンズ交換を行う場合のレンズの取りはずし方

ペトリペンタVのレンズは、丈夫な3本爪の専用バヨネットマウントを採用、極めて迅速・簡単に着脱されます。

はずす方法は鏡胴基部にあるバヨネット着脱用リングを左へ回し、指標（赤ポチ・写真矢印）を真上にもってくれば、そのまま外すことができます。装着する場合はこれと逆の操作をすればよいのです。

専用の交換レンズならもちろんそのまま、着脱できますが、従来のペトリペンタ用交換レンズ（ねじ込式）でも、アダプターリングを使って取付けることが可能です。





## 露出のきめ方

露出はシャッター速度と絞りのF値できまります。

シャッター速度目盛の数字は、1秒の何分の1であるかを示すもので、2は $\frac{1}{2}$ 秒、500は $\frac{1}{500}$ 秒を表わしています。Bはバルブといってシャッターを押している間中膜が開いていますから、長時間露出に使われます。絞り目盛はF 2が開放で一番明るく、1目盛絞るごとに光量が半減します。

明るい被写体程速いシャッター速度で小さな絞りを使い、暗くなる程緩いシャッター速度で大きな絞りをを用いるのが常識で



すが、その程度は右の「四季の露出表」をご参照下さい。また、シャッター速度と絞りには光量の調節以外に次のような性質があります。

- 速いシャッター程動体を完全に写しとめることができます。緩いシャッターで撮影の烈しい被写体はぶれてしまいがちです。ですから動体の撮影では、まずシャッター速度をきめこれに応じた絞りの値を求めます。
- 小絞りになる程被写界深度（実用上ピントの合う範囲）は深くなります。つまり近いもの遠いものを共にはっきり写したいときにはなるべく小絞りを用い、またわざとバックをボカしたいときには逆に大絞りを用います。そしてこれに応じたシャッター速度を求めればよいのです。

## 四季の露出表 晴天・太陽光下・順光線の場合

被写体 季節	海岸・山岳 風景	広い風景 明るい近景	戸外人物 スナップ	人物近写 動・植物
春(9～3時)	F 1 6	F 1 1	F 8	F 4
夏(9～4時)	F 1 6*	F 1 6	F 1 1	F 5.6
秋(9～3時)	F 1 6	F 1 1	F 8	F 4
冬(10～3時)	F 1 1	F 8	F 5.6	F 2.8

\*印はY 2 フィルターをかけた場合です。

シャッター速度 ASA 50のS級フィルム……… $\frac{1}{25}$ 秒  
 ASA 100のSS級フィルム……… $\frac{1}{50}$ 秒  
 ASA 200のSSS級フィルム……… $\frac{1}{100}$ 秒

(朝夕は2倍、日蔭は4～8倍、薄曇は2倍、本曇は4倍、フィルター使用時はその倍数をかけて下さい。)

## カラーの露出表 晴天・太陽光下・順光線

被写体	シャッター速度	感光度ASA 50 $\frac{1}{60}$ 秒	感光度ASA 10 $\frac{1}{60}$ 秒
明るい被写体		F 1 6	F 8
普通の被写体		F 1 1	F 5.6
暗い被写体		F 8	F 4

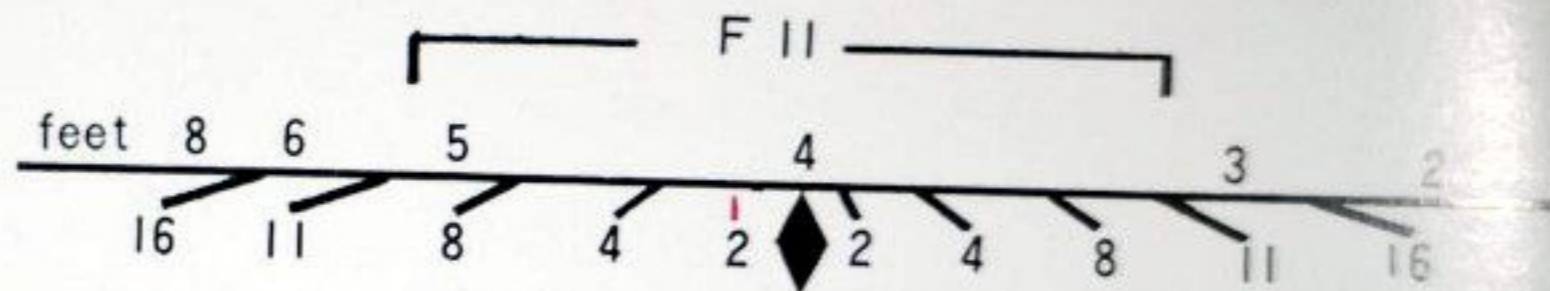
この表は日の出2時間後から日没2時間前までに適用します。春、秋が標準ですから夏期は半絞りしほり、冬期は半絞り開けて下さい。薄日は2倍、薄曇は4倍。

## 被写界深度とは



被写界深度とはある1点にピントを合わせたとき、その前後に生じる鮮明に写る範囲のことですが、これは小絞りにする程深く絞りを開く程狭くなる性質をもっています。この他レンズの焦点距離、撮影距離によっても変化します。

次の図はペトリオリコールF 2 50mmのレンズ鏡胴に刻まれている距離目盛と被写界深度目盛を平面にしたものです。



この図では4呎に距離が合っています。今例えばF 11に絞ったときの被写界深度を見る場合は、深度目盛の両側にある11の数字に対応する距離目盛を読めばよいのです。この場合は約3.2呎から5.3呎の間が被写界深度内だと分ります。

被写界深度目盛のF 2の位置にある赤色のラインは、赤外線撮影の場合の指標で、一たん焦点調節を行った後、更に距離目盛をこゝまでズラすことを指示しています。

この被写界深度を詳しく表示したのが被写界深度表です。



ペトリオリコールF2 50mm

被写界深度表

(in feet)

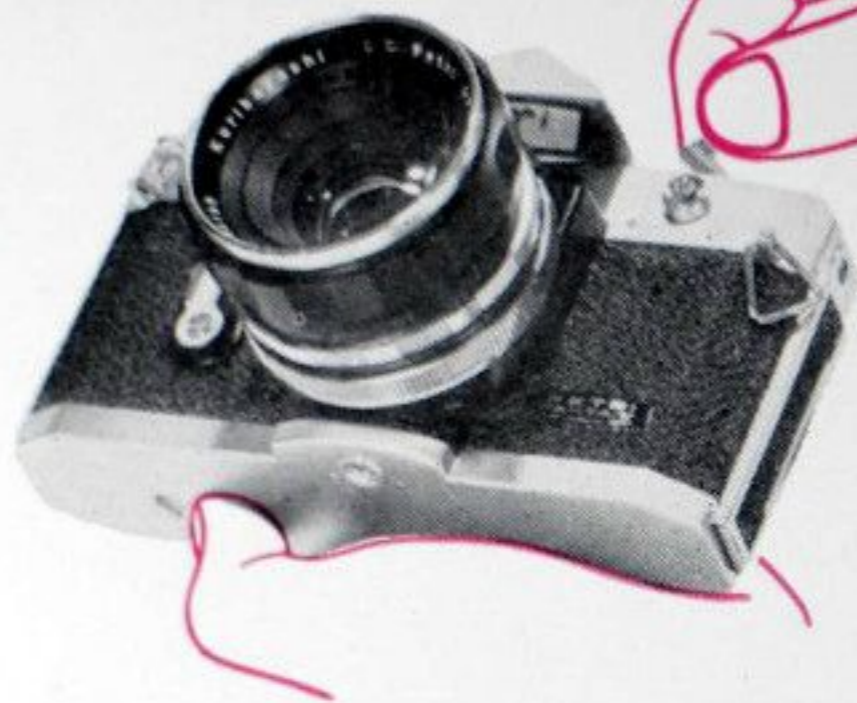
F No. feet	2	2.8	4	5.6	8	11	16
1.75	1.72 1.79	1.71 1.80	1.69 1.82	1.67 1.85	1.63 1.89	1.59 1.95	1.53 2.05
2	1.96 2.04	1.94 2.06	1.92 2.09	1.89 2.13	1.84 2.19	1.79 2.27	1.76 2.41
2.5	2.43 2.57	2.41 2.60	2.37 2.65	2.33 2.70	2.26 2.80	2.17 2.94	2.05 3.19
3	2.91 3.11	2.87 3.14	2.82 3.22	2.75 3.31	2.65 3.46	2.54 3.66	2.38 4.08
4	3.83 4.18	3.76 4.27	3.68 4.39	3.56 4.57	3.39 4.88	3.22 5.29	2.95 6.21
5	4.74 5.29	4.63 5.43	4.48 5.65	4.31 5.95	4.08 6.45	3.82 7.25	3.45 9.09
6	5.65 6.45	5.49 6.67	5.29 6.99	5.05 7.46	4.74 8.26	4.39 9.62	3.89 13.33
8	7.35 8.77	7.09 9.17	6.76 9.80	6.37 12.05	5.86 12.66	5.32 16.13	4.65 31.14
12	10.64 13.89	10.10 14.93	9.43 16.67	8.70 19.61	7.75 27.03	6.85 50.00	5.71 31.14
30	22.22 47.62	20.41 58.80	17.80 100	15.38 ∞	12.66 ∞	10.31 ∞	7.49 ∞
∞	83.33 ∞	62.50 ∞	43.48 ∞	30.30 ∞	21.28 ∞	15.63 ∞	10.75 ∞

被写界深度表の見方，使い方

この被写界深度表は，絞りのF値を横軸に距離（フィート）を縦軸にとって，それぞれの組合せによる被写界深度の変化を示したものです。マス目の中の2つの数字は，上段が前方深度，下段が後方深度を表わしています。例えば，F4の絞りで3フィートの被写体に焦点を合わせたときは，3.68フィートから4.39フィートの範囲がすべて鮮明に写ることが分ります。なお，この数字でもお分りのように前方深度は後方深度より浅い性質があります。

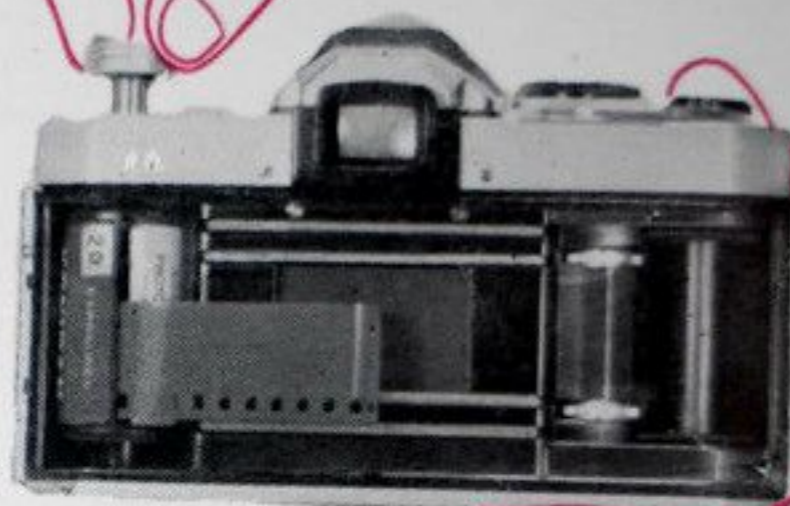
この被写界深度表は，「露出のきめ方」でご説明したように，作画的な効果をあげるために利用することができます。例えば奥行きのある被写体で，すべてを鮮明に写したいときには，被写体の厚みの中央よりやや、前方までの撮影距離を中心に，被写体を包括する深度をこの表で求め，これに対応する絞りのF値を求めればいいのです。

写し終わったらフィルムを巻戻します



### フィルムを巻戻す

カメラ底部のリターンボタンを押したまゝ、巻戻しクランクを起して矢印の方向に回転します。これでフィルムはパトローネの中に巻戻されてゆきます。



### フィルムを取出す

完全に巻き戻したら裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出してパトローネを取り出します。フィルムが巻取りスプールからはずれると回転が急に軽くなるので分ります。

## フィルムの出し方

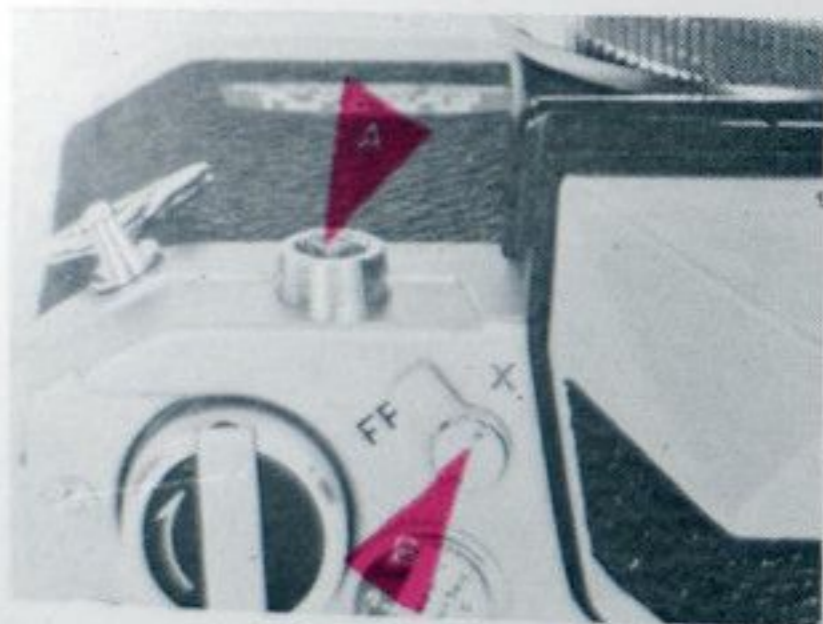
## シンクロ撮影の方法

シンクロフラッシュ撮影（閃光電球とシャッターを同調させ、暗い所でも動体を明るく写しとめる撮影）を行うには、フラッシュガンのコードを下図Aのシンクロターミナルに接続します。この場合固定したペンタアクセサリシューにフラッシュガンを取付けると便利です。

次に使用する閃光電球がFクラス、Mクラス

またはストロボの場合はシンクロ切換レバーをXに合わせ、またFPクラスの閃光電球を用いる場合は下図BのようにFPに合わせます。

こゝで下の使用表によってシャッター速度をきめ、更に閃光電球の種類と撮影距離によって絞りのF値をきめた上で、シャッターをきれば、シンクロ撮影ができます。



使 用 表

切 換 レ バ ー	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	X	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	B
F P	F P クラス (ねじ込み式)										
	FPクラス(さし込み式)										
X							F クラス				
							Mクラス				
							ストロボ				



35mm

105mm

135mm

180mm

500mm

ペトリ交換レンズを使えばこんなに変化のある撮影ができます。

### ペトリ交換レンズとアダプターリング

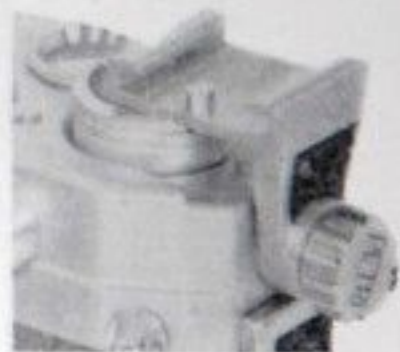
ペトリペンタVの交換レンズとしては、完全自動絞り付の望遠レンズ・ペトリオリコールF 2.8 135mmの他、手動プリセット絞りのF 3.5 35mm(広角), F 3.5 105mm(長焦点), F 3.5 135mm(望遠), F 3.5 180mm(望遠), F 8 500mm(超望遠)の各種ペトリオリコールレンズが用意されています。手動プリセット絞りの交換レンズは、アダプターリングを用いて、カメラに取付けるようになっています。アダプターリングはペトリペンタV専用として発売されています。



ペトリペンタV用の接写リング、複写台は近日中に発売の予定です。



## ペンタアクセサリシュー



ペトリペンタVの側面にあるアクセサリシュー用ねじ孔にねじ止めして、巻戻しクランクの上に固定できる専用アクセサリシューで、フラッシュガンなどを取付けるのに用います。

取付が簡便で安定性のよい便利なアクセサリですから是非1台に1個ご用意されるようおすすめいたします。

## ペトリペンタVフード



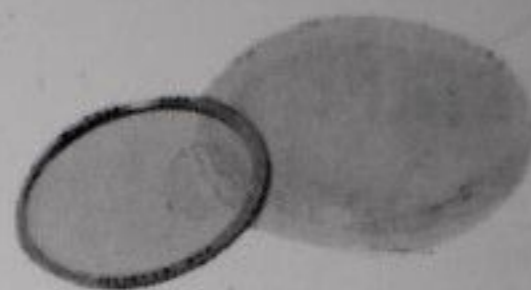
軽合金使用のスマートな丸型、止ネジ式レンズフードで着脱が確実です。

内面反射防止が完全ですから、レンズの写角以外からの有害な乱反射を除き、美しい写真が写せます。

丸型ですから取付けの角度を心配する必要もありません。

美しい革ケースに入っています。

## ペトリペンタVフィルター



戸外人物や風景を自然な感じに写す黄色系のY 1, Y 2 フィルター, 遠景や航空写真に使ってコントラスト効果をあげる橙色のYA 3, 赤色のR 1 フィルター, 人物の皮膚感をよく出す緑色のPO 1 フィルターの他紫外線カット用の, H-U V, カラー用としてW 4, C 4, C 8, C 12の各種が用意されています。



**PETRI**

Sign of GOOD DESIGN

## 栗林写真工業株式会社

営業所 東京都千代田区神田小川町2-2 電話 (291)4986-0 (国内関係)

工場 東京都足立区梅島町1 電話 (888)1111-4 (輸出関係)

**ペトリ**カメラ・サービスステーション

東京都千代田区神田小川町2-2 電話 (291)4986-0 (お問合せ先)